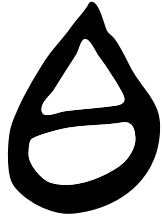


# カラフル ～色にまつわる漢字～

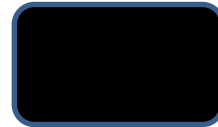
白



ハク・ビャク  
しろ・しら・しろい

白骨化した頭がい骨（頭の骨）の形。雨風にさらされて肉が落ち、白骨になった「されこうべ」の形であるから、「しろ、しろい」の意味となる。偉大な指導者の頭は「されこうべ」として保存した。優れた首長の頭の骨には優れた霊の力があると信じられていたからである。

もとの字は黒で、束と火とを組み合わせた形。束は束（袋の形）の中に物がある形。これに下から火を加えて、袋の中の物をこがして黒くすることをいう。「くろ、くろい」の意味となる。



黒

コク  
くろ・くろい

赤



セキ・シャク・  
あか・あかい・  
あからむ・  
あからめる

大と火とを組み合わせた形。大は手足を広げて立つ人を正面から見た形。これに火を加える形が赤で、けがれをはらい清める儀式をいう。「あか、あかい」の意味に使う。

もとの字は青。音を表すのは生で、金文の字の上の部分は生であった。下の部分の丹は、青や赤の色のついた土（顔料）を取るための井戸の形で、青丹や赤丹はその井戸から取られた。青は「あお」の意味に使う。

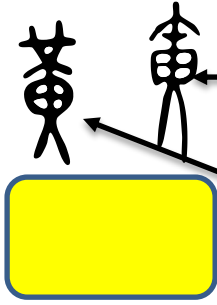


青

セイ・ショウ  
あお・あおい

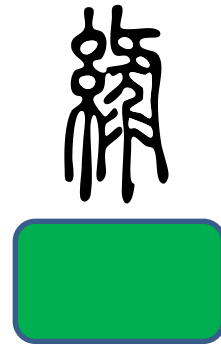
黄

コウ・オウ  
き・こ



もとの字は黄。甲骨文字は火を仕掛けて射る矢の形で、その火の光から「き、きいろ」の意味となる。  
金文は腰に巻く革帯につり下げる玉（宝石）の形で、その玉の色が黄色のため「きいろ」の意味となった。

もとの字は緑で、音を表すのは糸。緑は青色と黄色との間の色をいう。

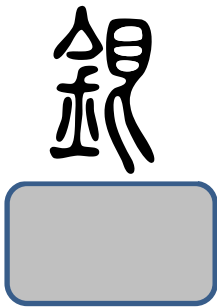


緑

リョク・ロク  
みどり

銀

ギン



音を表すのは艮。艮にギンの音がある。古くは銀を白金、銅を赤金といった。金・銀・銅は金三品といわれた。銀は、のちに貨幣として使われ、金融機関を銀行という。

人と卩とを組み合わせた形。卩はひざまずく人の形で、もう一人の人が後ろからのっている形。気持ちが高ぶり、それが顔の表情に出ることから、顔色の意味となった。  
「いろどり、いろ、つややか」の意味に使う。



色

ショク・シキ  
いろ